



学校教育目標『つながる 続ける 創り出す』

令和5年10月20日

横浜市立三ツ境小学校

三ツ境小だより 11月号

「できなくても当たり前」

校長 飯田 雅人

一昔前（およそ15年から20年ほど前）、家庭にあって学校にだけないものの代表的なものといえば、教室のエアコン、洋式トイレ、液晶テレビなどがあげられます。今ではおかげさまで三ツ境小学校ではすべて完備しています。では逆に、家庭ではあまり使われないけれど学校では当たり前のように普通に使っているものといえば何が思い浮かぶでしょうか？私が思いつくものでは、たとえば毎日の教室の掃除の時間に子どもたちが使うほうきがあります。家庭に帰ってから子どもたちは、掃除機を使うことがあっても、ほうきを使って掃除をすることは少ないでしょう。大人でも正しいほうきの使い方を知らない人はたくさんいると思います。また、子どもたちが家庭で雑巾がけをすることもほとんどないかと思いません。ですから学校では、1年生の時に雑巾を絞る練習から始めます。次に思いつくのは、理科の実験の時にアルコールランプなどに火をつけるときに使うマッチです。家庭では、ガスレンジはもちろんのこと、IHヒーターもずいぶんと使われ、炎自体を見る経験も少なくなってきたかもしれません。小学校では、私が担任をしていた頃には4年生の理科の時間に初めてマッチを使用していました。しかしながら現在の小学校の理科の教科書からはアルコールランプ（今は、実験でカセットコンロを使用します）がなくなり、必要がなければ、子どもたちは中学校まで理科の授業の中でマッチをする機会すらなくなってしまいました。一昔前とは違って、マッチを使って火をつける場面があったときには、ほとんどの子どもが初めてマッチを手にすると思ってマッチのすり方の安全指導をする必要があります。子どもにとっては、できなくても当たり前なことなのです。

子どもにとって、できなくても当たり前なことはたくさんあります。私たち大人と違って経験が少ないのですから当然のことです。さて、子どもたちがすぐにはできないことにぶつかったとき、私たち大人はどのように接していけばよいのでしょうか。前述したほうきや雑巾の使い方やマッチのすり方であれば、大人がていねいに手本を見せることが一番有効だと思います。しかしながら今すぐに手本を示すことができないこともたくさんあります。それは、結果がすぐに目で見えないものであったり、その成果を数字で表すことが難しかったりすることです。大人として一番よくないのは、子どものことを日頃ほったらかしにしておいて、勝手なときだけ非難することだと思います。子どもにとって、経験のないことは、できなくても当たり前なのです。

では、大人が手本をすぐに示すことができないときには何が必要なのか……。それは、「ほめて、励まして、そして時にはおだてること」だと思います。正直言ってこれは大人にとって忍耐が必要なことでもあります。学校でも、ご家庭でもたくさん子どもたちをほめてあげませんか。もちろん安全にかかわることであったり、人を傷つけてしまったりしたときには、毅然とした態度で子どもを指導することを大前提にしてのお話です。保護者の皆様や地域の皆様のご協力、よろしくお願いいたします。